世界冬の都市市長会広報誌
World Winter Cities Association for Mayors
2019年11月発行

〈世界冬の都市市長会事務局〉
〒060-8611　札幌市中央区北１条西２丁目　札幌市総務局国際部内　TEL 011-211-2032　FAX 011-218-5168
e-mail ／ wwcam@city.sapporo.jp　URL ／ https://wwcam.org/

2018年瀋陽市長会議実施報告

2018年9月12日から14日までの3日間、中国・瀋陽市において第18回世界冬の都市市長会議が開催されました。1985年の第2回市長会議以来33年ぶりに同市での開催となった今回の会議は、「冬の都市の暮らしをより良くしよう！」をメインテーマに、世界各国から会員都市とオブザーバー都市、瀋陽市の友好都市が参加し、事例紹介や環境行動目標の中間報告が行われました。

会期中には、瀋陽市及び事務局から提案された瀋陽宣言が全会員都市の賛同を得て採択され、オブザーバーも含む各参加都市の代表者が調印を行いました。調印は会場のバックパネルに各代表者がサインをする形で行われ、調印後には当該バックパネルの前で記念写真撮影が行われました。また、13日の全体会議では、決議案が満場一致で採択され、瀋陽市副市長による挨拶と閉会の宣言をもって2日間の会議は幕を閉じました。

●会期：2018年9月12日（水）～13日（木）
●会場：ニューワールドエキスポ、シャングリラホテル
●主な行事：
　開会式、基調講演、総会、会員都市による事例発表、環境行動目標中間発表、北極圏デザイン小委員会、全体会議・閉会式

参加都市（会員都市）7か国・17都市

カナダ	エドモントン市
中国	長春（チョウシュン）市、ハルビン市、ジャムス市、吉林（キツリン）市、鶏西（ジーシー）市、牡丹江（ボタンコウ）市、チチハル市、瀋陽（シンヨウ）市
フィンランド	ロヴァニエミ市
日本	松本市、札幌市
モンゴル	ウランバートル市
韓国	華川（ファチョン）郡、麟蹄（インジェ）郡、太白（テベク）市
ロシア	ノリリスク市

瀋　陽　宣　言

私たち20ヶ国47都市の代表は、2018年9月、第18回世界冬の都市市長会議に出席すべく、瀋陽市に集った。

平和的発展と地域協力の機運を踏まえ、1981年に提唱され始まった世界冬の都市市長会は、まちづくりの先進事例を共有し、相互理解と信頼を高めるための卓越した枠組みへと発展を遂げた。そして、過去の会議を基盤に、今回の会議では、会員都市のみならず、同じ問題に直面している世界の都市を迎え、この国際ネットワークに新たな活力をもたらしている。

会議のテーマである「冬の都市の暮らしをより良くしよう」は、世界中の人々のより良い生活への願いと真摯な追求だけでなく、行政としてのまちづくりの責任の所在を明示している。緻密な計画、細やかで無駄のない都市建設及び環境に配慮した開発、そして、幸せな冬の都市のための共同努力などのテーマにおいて深い意見交換を重ねた結果、友情の強化、交流と協力の促進、相互理解と信頼の向上などにおいて、見解の一致という成果に到達した。

近代文明の象徴として、都市は世界の繁栄と発展に大きく貢献してきた。グローバル化の急速な進展につれて、都市の国際化には都市の相互依存が伴ってきている。文化的背景や開発段階が異なる国々であっても、互いの理解を深め、尊重し、ともに発展していく必要がある。私たちは、開拓、包括、協力、互いの利益となる成果をコンセプトに、都市間の友好交流と綿密な協力を促進し、相互信頼を高め、共通の発展を実現することに全会一致で同意するものである。

現状の課題を前にして、私たちは新しい成長の道を切り開き、新たな成長の勢いを生み出すべきである。イノベーション、新産業革命、デジタル経済などの新しい手法を用いて、世界の都市の経済発展につなげていこう。

私たちは、国際交流において最も貴重なパートナーシップの精神をもって前進するべきである。国や都市の状況や開発段階、直面している課題は異なっても、私たちは経済成長の願いとまちづくりのビジョンを共有している。私たちがパートナーシップの精神を貫く限り、すべての困難を克服し、将来の成長のための新しい道筋を描くことができるであろう。

過去は序章である。我々は手を携えて前進し、協力共栄の新しいページを描き続けよう。より高い出発点に立ち、より寛容で開放的な新しい調和の時代を受け入れよう。そして、私たちのまちをより美しくし、市民のためにより幸せな生活を創造していくことをここに宣言する。

基調講演

開会式に続き、基調講演が行われ、7都市が、会議のメインテーマおよびサブテーマに沿った発表を行いました。

世界冬の都市市長会の会員都市からは、開催都市である瀋陽市の姜有為市長が都市部と農村部の不均衡や重工業を中心とした産業からのモデルチェンジ、高齢化の進展に伴う福祉政策などの総合的なまちづくりの取り組みについて講演したほか、世界冬の都市市長会事務局長である札幌市の見上雄一市長室長が、「都心エネルギーマスタープラン」に基づく、低炭素化や災害時における持続可能なまちづくり等について、「さっぽろ創世スクエア」の事例を通して紹介しました。

また、オブザーバー参加都市からは、モロッコ・ラバト市長から環境にやさしく、持続可能な都市に向けての取り組みについて、ベラルーシ・ミンスク市長から冬季スポーツを中心にした街づくり事例について、韓国・ソウル特別市の副市長から交通政策を中心としたまちづくりの取り組みについて、アゼルバイジャン・ガラダグ地区長から豊富な観光資源と天然資源を有するアゼルバイジャンで産業の中心都市のひとつとなっている同地区の可能性について、そしてイギリス・ベルファスト市長から2035年を見据えた都市計画のビジョンについての発表が行われました。

事例発表

午前の基調講演に引き続き、午後からは会場を変えて参加都市の代表者による会議テーマの事例発表が行われました。

会員都市のフィンランド・ロヴァニエミ市は、木材、泥炭、水力を活用したグリーンエネルギーの取り組みと電力使用量に占める割合の推移について、中国・ハルビン市は国内外の文化が共存する都市の冬を彩る数々のイベントについて、カナダ・エドモントン市は5年目を迎えた「ウィンターシティ戦略」に伴う市民の冬の行動傾向の変化と今後の改善点について、韓国・華川郡は人口2万7000人の町に世界中から観光客が訪れるヤマメ祭りについて、日本・松本市は、健康寿命延伸都市を目標に進める国宝松本城を中心としたまちづくりについて、ロシア・ノリリスク市は、市の経済を支えるノリリスクニッケル社による地域社会への貢献や公共サービス・施設の充実に向けた取り組みについて紹介しました。

また、オブザーバー都市では、フランスのクレルモン・フェラン市から、ミシュラン本社を有する産業都市のスマートシティ政策について、カナダのバンクーバー市からは最も環境にやさしい都市を目指すアクションプランとその進展について、アメリカのソルトレイクシティからは、現在の市長就任に伴い新設された経済開発部の役割や電力の完全再生エネルギー化と温室効果ガスの8割削減を掲げる市の取り組みについて発表が行われました。

メインテーマ:
冬の都市の暮らしをより良くしよう!

サブテーマ:
1 冬のまちづくりにおけるイノベーション
2 冬のスマートシティの創造
3 冬の都市における持続可能なまちづくり
4 幸せで美しい冬の都市を作ろう

開会式であいさつする姜有為 瀋陽市長

環境行動目標の中間報告

2018年1月の札幌実務者会議において各都市が発表した環境行動目標について、中国の長春市、ハルピン市、ジャムス市、鶏西市、瀋陽市、日本の松本市と札幌市、韓国の華川郡、麟蹄郡、太白市の10会員都市が取組状況の中間報告をおこないました。

加えて、カナダのエドモントン市から2015年に採決された環境戦略に基づく再生エネルギーへの転換と大気汚染対策の取り組み、中国の吉林市から吉林省の3か年計画に基づく微小粒子状物質PM2.5の減少と大気質の改善に向けた取り組み、チチハル市から太陽光・風力・バイオマス発電等を活用したエネルギー転換と省エネの取り組み、モンゴルのウランバートル市から補助金を用いた再生エネルギーやクリーンエネルギー利用の推進についても発表が行われました。

各都市の取り組みは、2020年のロヴァニエミ市長会議で最終報告が行われます。

北極圏デザイン小委員会

北極圏デザイン小委員会は、2015年に設置され、フィンランド・ロヴァニエミ市が事務局を務めていますが、長年担当してきたタルヤ・オウティラ氏がその研究を深めるため市役所を退職しオウル大学に転職したため、後任者が着任するまでの間、一旦活動を休止することが発表されました。今後の展開の方向性として、自治体だけではなく、大学等の高等教育機関や研究機関、企業等も巻き込みながら取り組みを進めていきたいという考えが示されました。

併催イベント

世界冬の都市商工業界交流会・プロジェクト発表会と都市・観光PRショーケース

世界冬の都市市長会の併催事業として、9月12日にシャングリラホテルを会場に「世界冬の都市商工業界交流会」が開催されました。アフリカ、南北アメリカ、アジア、ヨーロッパ、オセアニアの国と地域から50以上の団体の代表者が参加してプロジェクト発表会が行われたほか、個別商談会も実施されました。また、9月13日には、日本都市・観光PRショーケースと題したイベントも行われ、参加都市や現地メディア、旅行会社に向けて函館市、釧路市、松本市、札幌市の魅力を発信しました。

瀋陽国際友好の夕べ

オペラ劇場である盛京グランドシアターでは、観客と出演者あわせて1000人以上の規模で瀋陽国際友好の夕べが開催されました。中国の伝統的な音楽や雑技等の芸能、子どもたちやミュージシャンによる各国の歌や音楽が披露されたほか、瀋陽在住の外国人による、外国人の目から見た瀋陽市の魅力も紹介されました。

市内視察・ウォーキングイベント

2008年北京オリンピックのサテライト会場としてサッカー競技が行われ、現在も競技やコンサート会場として利用されている瀋陽オリンピック・スポーツセンター・スタジアムを視察したほか、瀋陽市の「母なる川」と称される渾河の北岸に整備された五里河公園を散策し、市民グループが健康維持のために武術、太極拳、太極扇などの運動を行っている様子を見学しました。

2018年実務者会議実施報告

会　期:2018年1月25日(木)～26日(金)
会　場:札幌パークホテル
参加者:5か国・15都市・63名
（1）会員都市:5か国・11都市・55名
（2）オブザーバー参加:4都市8名

参加都市(会員都市)5か国・11都市

中国	長春(チョウシュン)市、ハルビン市、ジャムス市、瀋陽(シンヨウ)市
フィンランド	ロヴァニエミ市
日本	松本市、札幌市
モンゴル	ウランバートル市
韓国	華川(ファチョン)郡、麟蹄(インジェ)郡、太白(テーベク)市

オブザーバー参加都市　4都市

日本	横手市、福岡市、千歳市、ニセコ町

主な会議内容

(1)会員都市が取り組む行動目標設定の報告

2014年1月の華川市長会議の決議を受け、各都市は環境保全に関する行動目標を設定し、2016年の札幌市長会議において取組結果が報告されましたが、同会議では、環境保全に関する取組を継続していくことが決定されました。今回の実務者会議では、①エネルギーの転換と削減に関する取組と②大気汚染などに関する環境保全の取組について、以下のとおり各都市の数値目標が発表されました。

長春市	石炭の総消費量の制限、排気ガスの規制、わらの有効活用
ハルビン市	市内の大気質の大幅改善し、PM2.5濃度を1㎥あたり53マイクログラム以下に抑え、重汚染日数を半減。河川と飲料水の水質向上。水とガスの主要汚染物質の段階的削減。
ジャムス市	2020までに化学的酸素要求量等の主要汚染物質の排出を削減、河川や飲料水の水質向上、大気質環境の改善と維持、穀物・野菜用農地の優先的保護。
鶏西市	大気・水質汚染の防止と管理、土壌環境の管理、生態系レッドライン制定、環境のための規制強化、生態環境保護における改革。
瀋陽市	2020までにエネルギー消費量に占める石炭の割合を70%以下に削減、一次エネルギー消費量に占める非化石燃料の割合を8%に増加、1㎥当たりのPM2.5の濃度を58マイクログラム以下に下げる。
ロヴァニエミ市	建築・解体から出る廃棄物の70%以上を資材として活用し、市から排出される廃棄物を2020年までに2000年のレベルに削減することで、市の廃棄物のうち少なくも55%をリサイクルする。
松本市	2020年度までに太陽光発電の導入量を45MWに。既存住宅の断熱改修によって削減する温室効果ガス排出量を1,600t-CO2に。
札幌市	2030年までに温室効果ガスを1990年比で25%削減、高気密・高断熱住宅普及、次世代自動車31万台導入、産業・業務分野の電力需要量を52.7億kWhに、再生可能エネルギーによる発電量を11.1億kWhに増加。
華川郡	2020年までに太陽光発電施設の認可数を154、稼働数を28に。
麟蹄市	2020年までに新再生可能エネルギーの発電量を66GWHに。エネルギー効率改善事業の対象を3,000世帯に拡大。
太白市	2020年までに再生エネルギーの新規プロジェクトに投資し、環境にやさしい再生エネルギー(風力、太陽エネルギー、燃料電池等)の継続的拡大を推進。

(2)活性化事業の中間報告

世界冬の都市市長会は、活性化事業を「会員都市を増やすために行う取り組み」と定義して、2017年から2019年までの予定で札幌市が事務局を務め活動を行っています。2017年には、冬の都市市長会として会員都市のカナダ・エドモントン市と共に、国連広報局が主催するイベントに参加し、イベントに参加した国連機関、各国政府代表、国連登録NGO関係者とのネットワークを構築するとともに、広報活動を行いました。今後も同総会・展示会や他の国際会議等に参加して積極的に広報活動を行っていきます。

(3)北極圏デザイン小委員会

事務局を務めるロヴァニエミ市より、2017年の冬に行ったアンケートの結果が報告されました。都市設計に影響のある課題や問題、イノベーションを制限する冬期の課題や問題等について発表された他、小委員会参加都市である札幌、長春、エドモントンによるラウンドテーブルディスカッション等が行われました。

併催イベント

2018年1月26日は、札幌市内中心部のレストランを会場に、市民向けイベント「冬の都市のライフスタイルから見るクオリティ・オブ・ライフ」を開催しました。イベントは、市内の中学生や会議参加都市の代表者が各都市の冬のライフスタイルと地域を代表する郷土料理を紹介する都市紹介セッション、大学のライフスタイル関連の専門家をファシリテーターに迎えて、会員都市関係者などとQOLの高い暮らし方、働き方、女性の活躍などについてのパネルディスカッションなどを行うフォーラムセッション、プレゼンテーションで紹介された郷土料理を提供し、市民と会議参加者がフリートークを楽しみながら試食するランチ＆ポスターセッションの三部構成で行われました。また、会場には会員都市のポスターを掲示し、市民に冬の都市の魅力を発信しました。

今後の会議予定

第19回世界冬の都市市長会は、2020年にフィンランドのロヴァニエミ市で開催されます。2014年に市長会に加盟し、2015年からは北極圏デザイン小委員会の事務局も務めている同市での市長会議開催は初めてとなります。

また市長会の前年に行われる実務者会議は瀋陽市長会議において、憲章が改正され、事務局所在都市以外での開催が可能となったことを受け、2019年11月にロシアの新規加盟都市であるノリリスクで開催されます。

WWCAMウェブサイトリニューアル！

会員都市を増やすための取り組みの一環として、世界冬の都市市長会のウェブサイトをリニューアルしました。是非ご活用ください。
世界冬の都市市長会公式ホームページ：https://wwcam.org/

新規会員都市の紹介

カナダ・ウィニペグ市（2017年1月入会）

カナダの中でもウィニペグは冬で有名で、住民は長年にわたって冬を歓迎してきました。気温が下がると、外に出て、この季節がもたらしてくれる全てを楽しむのです。

ウィニペグにおける冬の文化のひとつに活発な集まりがあります。フェスティバル・ドゥ・ボヤージャーは西カナダ最大の冬の祭典で、ライブ音楽やアイスバー、世界の彫刻家が集う雪像シンポジウムなどが開催され、地元のフランス語コミュニティを祝います。

また、レッド川とアシニボイン川の上には世界最長規模のスケートトレイルがあり、ここを会場に世界的にも有名なウォーミングハット・デザインコンペが開催されるほか、すぐ隣には、世界で唯一の氷上ポップアップレストラン「RAW:almond」もあります。

マニトバ州北部は、ホッキョクグマで有名です。アシニボイン公園動物園の“Journey to Churchill”（「チャーチルへの旅」）展示では、シロフクロウ、カリブー、ジャコウウシといった北極圏の動物たちと共に、ホッキョクグマを間近で見ることができます。

冒険者たちが愛してやまないのが、フォートホワイト・アライブの雪に覆われた森林やトレイルの絵画のような風景です。ここでは、スノーシューハイキング、ノルディックウォーキング、トボガン（そり遊び）、自然のスカベンジャーハント、氷結した湖上でのヨガなど様々なアウトドアアクティビティが提供されています。気持ちよく冬を楽しむなら、ノルディック・スパ・ネイチャーの「Thermëa」へ。サウナ、温水・冷水プールを備えたスカンジナビアスタイルのスパで季節を満喫することができ、1月は特に爽快です。

ウィニペグの様々な冬の楽しみ方については以下のリンクからご覧いただけます。

tourismwinnipeg.com/plan/winnipeg-winter

中国・牡丹江市（2018年7月入会）

牡丹江市は北東アジアの中心部に位置するとともに、黒龍江省東南部の中心都市で、38,800㎢の面積に275万人の人口を有し、黒龍江省で第3位の経済規模を誇ります。主な特徴としては、恵まれたロケーション、良好な生態系、豊富な資源、完備された産業、そして豊かな文化が挙げられます。

ロケーションがよいため、アクセスも便利です。211㎞に渡ってロシアと国境を接しており、ロシア・ウラジオストク港までは153㎞、太平洋までは直線距離で50㎞と近く、鉄道および道路の国家一類口岸（出入国検査場）が4つあります。

世界観光都市連合会の最初の会員都市に名を連ねる牡丹江は、中国の優れた観光都市で、8つのカテゴリーの109の観光資源があり、観光スポットは450以上にも上ります。鏡泊湖は世界最大の火山堰止湖であり、また「中国雪郷」は毎年7か月もの間雪に覆われます。

牡丹江は、資源、生産要素がともに豊富で、加速度的に成長を続けている産業都市でもあります。さらに、北緯45度に位置することから、とうもろこし、牛乳、黒土の世界的ゴールデンベルトがあり、中国の野菜とオーガニック食品の都と呼ばれています。野菜は、ロシア、韓国、日本、欧米など約40の国と地域で販売されています。

美しく、豊かで、文明的で、開放的な都市牡丹江へどうぞお越しください。

ロシア・ノリリスク市（2018年8月入会）

ノリリスクは世界最北の町のひとつで、約18万人が暮らしています。北極圏内の北緯69度に位置しているため、白夜（5月20日～7月24日）と極夜（11月30日～1月13日）があり、時としてオーロラを見ることもできます。

過酷な気象条件の地域にあるノリリスクは、世界で最も寒い都市（最低気温は-56℃）のひとつでもあり、1年のうち280日は霜が降り、130日以上は吹雪で、降雪量は2百万トンを超えます。さらに、世界で最も風が強い五大都市にも名を連ね、その対策としてコンパクトなループ様式の都市計画を採用しているほか、ほとんどの建物は、永久凍土でのコストと労力を削減する独自の杭基礎技術を用いて建てられています。

66年前に建設されたノリリスクは、今日、41の幼稚園と36の学校、そして3000人以上の学生が学ぶ高等教育機関であるノリリスク工業大学等、極北での快適な暮らしのための要件を満たす高度なインフラを備えた近代的な都市です。こうした教育機関で学んだスペシャリストは、ロシア最大規模の産業拠点であるノリリスク・ニッケル社での需要が大変高くなっています。

ノリリスクは、「失われた世界」であるプトラナ台地のへの玄関口でもあります。ユネスコ世界自然遺産に登録されているプトラナ台地の面積は25万平方キロメートルで、ロシアで最も高い滝密度を誇ります。飛行機でのみ到達可能（夏期はエニセイ川からもアクセス可）であることから、ビッグホーン、オジロワシ、ジャコウウシといった世界の他の地域で絶滅の危機に瀕している種の保全に貢献しています。

中国・大慶市（2019年4月入会）

中国の黒竜江省西部に位置する大慶市は、その管轄下に5つの地区と4つの農業郡があります。面積は21,000㎢で、うち都市部が5,105㎢を占めます。総人口は272万人で、都市部の人口は137万人です。市内には国家レベルの新しいハイテク産業開発区と経済技術開発区、そして大慶油田公司、大慶石油化学公司、大慶精油所公司、大慶中蘭石油公司の4つの国営大企業があります。

大慶市は、1959年に大慶油田が発見された後、1979年に設立されました。油田の開発から60年ですが、石油生産量は27年連続で5000万メトリックトン、12年間連続で4000万メトリックトンにを維持しており、総産出量は23.7億メトリックトンに達します。大慶市には、8つのカテゴリーと200種類の石油化学製品を含む一次精製能力が1,820万トンの石油化学会社が76社あります。大慶は石油とガスの生産能力の拡大、下流での石油とガスの処理の深化、自動車製造、新素材、電子情報および現代的サービスの開発を優先する努力をしています。

大慶市は21の国内都市と15の航空路線で結ばれています。2018年の航空旅客数は83万人を超え、前年比33.7%の増加となりました。また、鉄道、都市間急行列車、高速道路、都心高速道路といった交通網も発達しています。独自性と魅力を兼ね備えた都市で、市内には、草原や森に隣接する居住区以外にも100以上の湖が点在しています。中国国家環境保護都市、国家衛生都市および文明都市として評価を受けていますが、中国で、3つのタイトルを同時に獲得した都市はそれほど多くありません。

中国における裕福で強い都市トップ100ランキングで、大慶は65位でした。省レベルの模範高校が13校あり、教育の質が高い大慶市の高校の就学率は95%です。劇場、美術館、図書館、オリンピックスタジアムなどの質の高い公共施設があり、国際スヌーカーチャンピオンシップ、WCBAナショナル女子バスケットボールゲーム等のスポーツやイベントで多くの人が訪れるほか、国内外の人気アーティストの公演も行われています。大慶の人気度と影響力は過去数年間安定した伸びを示しています。

世界冬の都市市長会

「世界冬の都市市長会」は、“冬は資源であり、財産である”というスローガンのもと、世界中の冬の都市が集まり、冬の技術や経験、取り組みを学び合うためのネットワークです。1981年に札幌市が提唱し、翌年、第１回の市長会議が開催されました。当初は、北方都市会議と呼ばれていましたが、さらなる発展を目指し、2004年に名称を「世界冬の都市市長会」に変更しました。

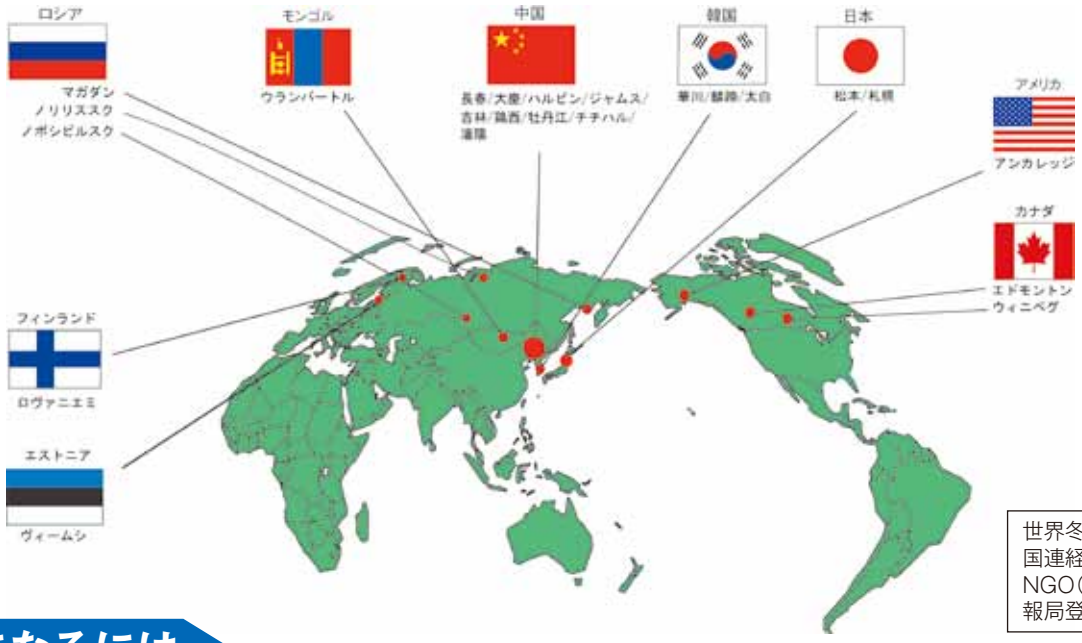
主な活動には、2年に一度開催される市長会議、政務実務者が集まり次回市長会議の開催計画やテーマ、市長会の運営などについて協議する実務者会議、冬の都市の実務者・技術者が先進事例などを調査・研究する小委員会があります。

冬の都市の市長が一堂に会し、快適な冬のまちづくりに有益な情報や技術を共有しながら、地球環境問題のように世界が協力しなければならない課題にも、国際社会の一員として取り組んでいます。積雪寒冷という同じ環境にある海外都市とのこうした交流が、それぞれの都市にとって有形・無形の財産を築くことにつながっています。

＊冬の都市とは

積雪または寒冷という気象条件のもとでまちづくりを行う都市。
積雪の基準 ･･･ １年間のうちで積雪量の最大値が概ね20ｃｍ(8インチ)以上となること。
寒冷の基準 ･･･ １年間のうちで最も寒い月の平均気温がおおむね摂氏0度(華氏32度)以下となること。

会員都市　9カ国23都市(2019年4月現在)



世界冬の都市市長会は、国連経済社会理事会登録NGO(ロスター)、国連広報局登録NGOです。

会員になるには

入会手続き: 会員になるには、入会を希望する都市の市長が会長に入会を申請します。その後、役員会に諮られ、入会が決定されます。

会　　費: 会員都市は、都市人口と国民１人あたりの国内総生産額(GDP)を基準として算出される年会費を払わなければなりません。ただし、入会初年度の会費納入金額は、年会費の半額となります。

会員になると: 市長会総会及び市長会議に出席して発言し、表決に加わることができます。また、市長会議の開催市に立候補することができます。さらに、会員間に形成されているネットワークを活用してさまざまな分野で個別に交流をすることができます。

申込先: 世界冬の都市市長会事務局

最新の会議内容やこれまでの成果についての詳しい情報を、世界冬の都市市長会のウェブページに掲載していますので、ぜひご覧下さい。(https://wwcam.org/)

世界冬の都市市長会は、快適な冬のまちづくりについて、ともに考える会員都市を募集しています。入会の詳しい要件などについては、世界冬の都市市長会事務局までお問い合わせください。